

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 7 部門第 3 区分
 【発行日】平成 18 年 5 月 11 日 (2006.5.11)

【公開番号】特開 2006-81228 (P2006-81228A)
 【公開日】平成 18 年 3 月 23 日 (2006.3.23)
 【年通号数】公開・登録公報 2006-012
 【出願番号】特願 2005-351228 (P2005-351228)
 【国際特許分類】

H 0 4 B 1/04 (2006.01)

【F I】

H 0 4 B 1/04 H

【手続補正書】
 【提出日】平成 18 年 2 月 14 日 (2006.2.14)
 【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲
 【補正対象項目名】全文
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【特許請求の範囲】
 【請求項 1】

水晶振動子と、

該水晶振動子に結合され、固定の基本振動周波数を出力する基本振動周波数発振回路と

リアクトルと、

該リアクトルに結合され、発振周波数が制御される F M 放送波発振回路と、

該 F M 放送波発振回路の発振周波数を可変分周するプログラムカウンタ、基本振動周波数を分周する基準周波数分周回路、前記プログラムカウンタの出力と前記基準周波数分周回路の出力とを比較して前記 F M 放送波発振回路の発振制御用の信号を出力する位相比較回路からなる P L L 周波数シンセサイザと、

左右 2 系統の音声信号を前記基本振動周波数から生成されるクロックを用いてステレオ変調し、前記 F M 放送波発振回路の発振制御用の信号を出力するステレオ変調回路と、を
備え、

前記基本振動周波数は、7 . 6 M H z または 1 . 9 M H z の整数倍であり、前記基本振動周波数から生成されるクロックは 1 9 K H z の周波数信号を含み、1 9 K H z の周波数信号はセパレーション調整用の可変コンデンサを通してステレオ変調回路に与えられることを特徴とする F M 送信機。

【手続補正 2】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 1 0
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0 0 1 0】

請求項 1 の F M 送信機は、水晶振動子と、該水晶振動子に結合され、固定の基本振動周波数を出力する基本振動周波数発振回路と、リアクトルと、該リアクトルに結合され、発振周波数が制御される F M 放送波発振回路と、該 F M 放送波発振回路の発振周波数を可変分周するプログラムカウンタ、基本振動周波数を分周する基準周波数分周回路、前記プログラムカウンタの出力と前記基準周波数分周回路の出力とを比較して前記 F M 放送波発振回路の発振制御用の信号を出力する位相比較回路からなる P L L 周波数シンセサイザと、

左右 2 系統の音声信号を前記基本振動周波数から生成されるクロックを用いてステレオ変調し、前記 F M 放送波発振回路の発振制御用の信号を出力するステレオ変調回路と、を備え、前記基本振動周波数は、 7.6 MHz または 1.9 MHz の整数倍であり、前記基本振動周波数から生成されるクロックは 19 KHz の周波数信号を含み、 19 KHz の周波数信号はセパレーション調整用の可変コンデンサを通してステレオ変調回路に与えられることを特徴とする。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0011

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0011】

本発明の請求項 1 の構成によれば、ステレオ変調用の周波数信号と PLL 周波数シンセサイザの周波数信号について検討し、前者については分周化を採用し、後者については必要な周波数区分の見直しを行い、 7.6 MHz または 1.9 MHz の整数倍の周波数を基準周波数とし、前記基本振動周波数から生成されるクロックは 19 KHz の周波数信号を含み、 19 KHz の周波数信号はセパレーション調整用の可変コンデンサを通してステレオ変調回路に与えられることで、従来は、周波数毎に別々に必要とされていた発振器及びこれに用いられる振動子を単一にすることができる。